

令和8年度 重点目標達成のためのアクションプラン

氷見市立十二町小学校

＜本年度の重点目標＞

なりたい自分へ向かい、自ら考え、挑戦する子供の育成

	アクションプラン1	アクションプラン2
重点課題	確かな学力の育成 (進んで学び、表現する子供)	豊かな心と健やかな体づくり (温かく、思いやる子供、たくましく生きる子供)
前年度の課題	・授業や対話タイムで継続して「話型」を活用したり、「話す目当て」を設定したりしたことによって、順序を意識して話したり、理由を明確にして話したりする力が高まった。各学級の実態に応じて板書で言葉を示す、ワークシートに話の構成を考えてから話すなど、教師が手立てを工夫したことも有効であった。一方、「聞き方表」を活用したり、「聞く目当て」を設定したりしたが途中で姿勢が崩れたり、うなずきながら聞いたりすることはできていない子供がおり、継続して指導していく必要がある。また、話す力は高まってきたため、理由や例を踏まえて書くなど、詳しく書く力を高めていく必要がある。 ・代表委員会で挨拶に関する重点目標を決めて挨拶週間に取り組んだ。「挨拶カード」を用いて自己評価をしたり、放送で挨拶名人を紹介したりしたことによって、相手を意識し、自分から気持ちのよい挨拶をしようとする意欲を高めることができた。また、「ほかほか週間」で見つけた自他のよいところをカードに書き、「十二町っ子ほかほかの木」に掲示したり、放送したりしたことで友達のよさに気付いたり、互いを認め合ったりする機会となった。一方、挨拶週間以外ときには気持ちのよい挨拶をする意識が低かった。また、日常会話の中に乱暴な言葉遣い等が見られるため、相手を思いやる言動や場に応じた言葉遣い等、継続して指導していく必要がある。	
具体的な達成目標 (数値目標)	・友達の話をよく聞き、自分の思いや考えを伝え合うことができる。(80%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)	・思いやりのある言動を取ることができる。(80%以上) (児童自己評価・保護者評価：4段階評価のA・B評価)
行動Ⅰ (方策)	＜方策1＞ ・友達の話を聞く態度が向上するように、「聞き方表」を教室に掲示し、授業でのペア・グループ学習で活用するとともに、自分の態度を振り返る機会を確保する。 ＜方策2＞ ・対話タイムでは伝え合いが生まれるようにテーマを工夫したり、授業では効果的な対話ができる場面でペア・グループ等の学習形態を取り入れたりして、子供たちが主体的に話することができるようにする。	＜方策1＞ ・子供たちが主体となって挨拶運動を行うことができるよう、代表委員会が方策を考え、継続して実践・振り返りを行う。 ＜方策2＞ ・相手の気持ちを考えた行動や言葉遣いができるよう、互いのよさを見付け、認め合う機会を設ける。また、「十二町っ子ほかほかの木」の掲示や「ほかほか週間」を設定し、実践意欲を高める。
中間評価	〈方策1〉 B 〈方策2〉 B	〈方策1〉 B 〈方策2〉 B
	・「相手を見て、いい姿勢で話を聞くことができた」「うなずきながら、笑顔で、終わりまで聞くことができた」と答えた児童が、どちらもA B評価は80%以上であった。これは、昨年度から継続して、聞く態度が向上するように「聞き方表」を用いて、繰り返し指導している成果だと考える。また、対話タイムにおいては、テーマを低・中・高学年で分ける等工夫したことで、子供たちが「聞きたい」という思いをもつことができたことも要因であると考えられる。一方で、「日常生活や学習参観等の様子から、相手を見て最後までしっかりと話を聞くことができています」と答えた保護者は、A B評価は87%だったものの、A評 ・「大きい声で挨拶をすることができた」と答えた児童はA B評価が91%、「相手より先に挨拶をすることができた」と答えた児童は、A B評価が85%と高い結果であった。これは、代表委員会が視点を決めて挨拶運動に取り組んだことや、放送で挨拶名人を紹介したことにより、挨拶に対する意識が高まったことが要因と考えられる。また、「お子さんは、家庭や地域で挨拶をしていますか」という質問に対して、A B評価と回答した保護者は87%と高く、家庭や地域でも挨拶をしようとする意欲が高まってきたと考えられる。一方で、「笑顔で挨拶をすることができた」と答えた児童はA B評価で77%と、数値目標を下回っていた。これらの結果から、	

	価は13%と低かった。今後、対話タイムや授業中のグループ学習だけではなく、日常生活でも聞く態度の向上を図る必要があると考える。また、自分ではよく聞くことができていると感じていても、他者からはそのように見えていないことも考えられる。そこで、自分や友達の聞く態度について、授業中、学校生活、家庭等と場面を分けての振り返りを定期的実施し、どのような場面でもよい態度で聞けるようにしていきたい。 ・「聞きたいことを進んで質問することができた」と答えた児童は、A B評価が92%と高かった。これは対話タイムの「インタビュー名人になろう」で、相手の今まで知らなかった一面を知ることができ、楽しみながら友達に意欲的に質問することができたからであると考える。一方で、「友達につなげて話すことができた」と答えた児童は、A B評価が77%と、数値目標を下回った。これは、考えをつなげて話す方法が分からない児童が多かったからではないかと考える。そこで、つなげる言葉の「話型」を掲示したり、折に触れて確認したりすることで、対話タイムや授業の話し合いの中で活用できるようにしていきたい。	子供たちが笑顔等を意識し、お互いが心地よいと感じられる挨拶をしようとする気持ちを、さらに高めていく必要がある。そのため、挨拶カードや放送での紹介の仕方を工夫するとともに、挨拶運動のポスターの掲示方法を見直し、挨拶を価値付ける取組を実施していきたい。 ・「友達の気持ちを考えた言葉をかけたり、行動したりすることができる」と答えた児童は、A B評価が88%と高い結果であった。一方、「子供たちは、相手の気持ちを考えた言葉遣いや行動をしている」と答えた教職員は、A B評価が60%と低かった。この結果から、子供たちは思いやりのある言動について知ってはいるものの、具体的な実践が十分ではないことが考えられる。今後も、「ほかほかの木」の掲示や放送で思いやりのある言動の紹介を継続するとともに、帰りの会で友達のよいところを紹介する活動等を意図的に取り入れていくことで、友達のよいところを見付ける力を高めるとともに、友達を尊重し、大切にしようとする気持ちをさらに育んでいきたい。
中間評価公表	ホームページ・学校だより	
行動Ⅱ (方策)	<方策1> ・いつでも友達や周りの人の話を聞く態度を向上できるよう、「聞き方表」を活用して継続的に指導するとともに、日常生活等いろいろな場面での自分や友達の聞き方についてワークシートを用いて定期的に振り返りを行う。 <方策2> ・対話タイムでは伝え合いが生まれるようにテーマを工夫して意欲的に取り組めるようにするとともに、「話型」を示すことで友達につなげて話すことができるようにする。	<方策1> ・子供たちが主体となって挨拶運動を行うことができるよう、代表委員会が方策を考え、継続して実践・振り返りを行う。 ・挨拶振り返りカードの効果的な活用 ・挨拶の視点の明確化 (挨拶ポスターの教室への掲示等) ・挨拶を価値付ける取組（絵本の紹介等） <方策2> ・「十二町っ子ほかほかの木」の掲示や「ほかほか週間」の取組を継続するとともに、学校と家庭の両面から、相手の気持ちを考えた行動や言葉遣いができた場面を積極的に価値付けていく。

【評価基準】

- ・「方策」 A…目標達成に効果があった B…目標達成にやや効果があった
C…目標達成にあまり効果がなかった D…目標達成に効果がなかった
- ・「総合評価」 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった